

曾於市小・中学校の学び

～すべての子どもが
主人公になる学びへ～

現代の子ども達は将来の変化を予測することが難しい時代を、自らの力で人生を切り拓いていく力が求められます。そうした子ども達を育てるためには、解き方が決まった問題を効率的に解ける力だけを育むのではなく、身の回りの問題から問いを立て友達とともに解決していく力を育む必要があります。

曾於市内の小・中学校では「教師主導の授業」から脱却し「子ども主体の授業」を実現するために、多様な人々とつながりながら自らの問いを解決していく「学びの共同体」の理念をもとに、授業改善を行っています。

「学びの共同体」の理念って…？

- 一人残らず子どもの学ぶ権利を大切にして聴き合い学び合う関係をつくる。
- 学校を子ども達が学び育ち合う場所であるだけでなく、教師も専門家として学び育ち合う場所、保護者や市民も協力してともに学び育ち合う場所にする。

■ 「話し合い」を「聴き合い」へ、「教え合い」を「学び合い」へ。

- ・相手の考えを聴き自分の考えをさらに発展させていく学びをつくる。
- ・分かったことを伝えたり教えたりする授業から「分からないこと」を学びの始まりとして全員が分かる・学ぶ授業をつくる。

■ 子どもの学びの姿から考える「子どもの学び」協議会の実施

- ・授業後の協議会では教師が子ども達一人ひとりの学んでいる姿を丁寧に見取り「子どもが学び続ける授業をつくるにはどうすべきか」を学校・学年・教科を超えて交流し合います。

末吉小学校での取り組み

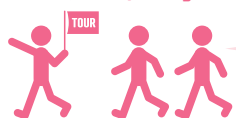
末吉小学校では令和5年から令和6年の2年間にかけて研究した成果を2月13日に公開しました。当日は市内外から90名以上の参加者があり、学習者主体の授業や変わりゆく「学び」について協議しました。

今回はその一部を紹介します。



～「ツールの学び」から「トラベラーの学び」へ～

ツールの学び



ツアーコンダクターが添乗する「ツアー」と呼ばれる団体旅行の観光客のような姿を指し、自分でよく考えなくても添乗員の案内に従ってさえいれば、失敗することなく旅行を楽しむことができるような学び。

トラベラーの学び



個人で計画した旅のように自分の興味・関心をもとに、現地の人と触れ合ったり、現地の人が食べている物を食べたりするなど、その時の自分の考えに従って旅行を楽しむことができるような学び。

末吉小学校ではこの「トラベラーの学び」を実現するために「ラスボス問題」と呼ばれる発展的な課題を出題し、子ども達が学ぶことの達成感や意味を深く自覚し、友達との対話を通じた深い「学び」を作り出す取り組みを行っています。